
パラメ

関村俊介

登場人物

男
B

男
A

夜中。公園のベンチに男が2人、座っている。

男 A 例えば、ここが月面だったとしてさ。

男 B あ？

男 A や、ここがね、月だったとしてね。

男 B なんだ急に。

男 A まあ聞けよ。

男 B ああ。

男 A 月面だったとしたらさ、きっと、あそこらへんに地球が見えるわけじゃん。

男 B 見えるだろうね。

男 A で、そこらへんでさ、ウサギが飛び跳ねてるじゃん。

男 B ウサギはいねえよ。

男 A え？

男 B いねえよ、ウサギは。

男 A いるだろ？小学校でそう習ったもん。

男 B いねえよ。

男 A でも、小学校で、

男 B 小学校でウサギがいると習ったとしても、中学校でいないって習うから。

男 A 習ったかなあ。

男 B とにかくいねえから。で？

男 A 月って、重力が、えっと、どれくらいなんだっけ？

男 B 地球の6分の1。

男 A そうだ、6分の1だからさ。6倍、飛び跳ねてるわけじゃん。ウサギ。

男 B ウサギいねえの。何回言ったら覚えてくれるの？

男 A いねえのか。

男 B いねえのよ。

男 A 仮にすることにしてもらっていい？ウサギ。

男 B だって、いないからさ。

男 A まあ、いるとして。聞いてくれ。

男 B うん。

男 A でき、空気がないわけだね、月。

男B　ないね。

男A　だからさ、死んじゃうよね。ウサギ。

男B　：何の話？

男A　ま、そういうことだよな。

男B　怖い怖い怖い、全然わかんない。

男A　わかんない？

男B　わかんねえよ。

男A　ちゃんと、想像しながら聞いてた？

男B　聞いてた。今、そこら中に、ウサギの死骸が転がってる。

男A　かわそうなことしたよなあ。

男B　そうだね。でも、もともといねえからさ。え？え？何が言いたいのか？

男A　ここが月面だったらさ、俺たちも死んじゃうよね、空気ないから。

男B　宇宙服とか着てなかったらね。

男A　だからさ、ここが地球でよかったよな、ってそういう話。

男B　あー、そういう話か。それが言いたかったんだったら、ウサギ殺さなくてもよかったかもね。

男A　ウサギの話がないと、お前、わからなかっただろ？俺の言いたかったこと。

男B ううん。むしろ、ウサギの話がないほうが、すぐわかったと思う。

男A そんなことねえよ。

男B あるよ。

男A あーあ。地球に生まれて、よかった。

男B どうした？お前どうした？今日。何かあったのか？っていうか、あっただろ。

男A 何もねえよ。

男B 言ってることがおかしいからさあ。

男A 何もねえって。俺の言ってることがおかしいのは、いつものことだろ。

男B 自覚あるんだ。

男A あるよ。

男B あるなら治せよ。

男A これが俺の個性だろうが。

男B 開き直ってるなあ。

男A 今日もいつもどおり、起きて、飯食ったり、仕事したりして、夜、ここに来たよ。

男B いつもどおりねえ。

男A もう、どれくらいになるかね。

男B 何が？

男A ここに来るようになってさ。

男B 半年くらいじゃん？春だったでしょ、最初に来たの。

男A なんか来ちゃうんだよなあ、ここ。

男B そうだな。

男A なんだろうね、この感じ。

2人の男は、誰かを待っているわけでもなく、

何かをしようとしているわけでもなく、

もちろん恋人同士でもなく、

ただなんか毎晩、この公園に来ていた。

男B 最近、思うんだけど。

男A なになに？

男B なんかさあ、もう、これ、我慢比べみたいになってない？

男A どういうことだよ。

男B お互い、相手が毎日来るから毎日来ちゃってるみたいなき。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

パラメ（おためしサンプル）

2012年11月5日 初版発行

2012年11月13日 改訂（ver.4.000）

著 者 関村俊介 © 2012年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-49-2903
